



明石市立
文化博物館

文化博物館だより 第293号

2009年9月18日

みなさん、こんにちは。紅葉には早いですが、どこか出かけたくなる季節になってきましたね。

● 永澤先生のギャラリートーク

ギャラリートークのために、13日(日)、永澤永信先生が来館されました。上下黒のスーツにネクタイというお姿で、昼前に到着された先生は、尋ねてこられたお知り合いの方などと会場でお話されたり、常設展示室などをご覧いただいていたようです。

午後2時頃、イベントの案内放送が入ると、ギャラリートークを目当ての方や陶磁協会明石支部の方などが会場に集合されました。そして、先生のお話が始められました。

ちょっと緊張したご様子の先生(右写真)は、「作家だからというだけでなく、我々の生活を後世に伝えていくという使命があるのではないかと感じた」と冒頭、当館の展示を見ての感想を述べられました。そして、ご自身で「すねかじりの時代の作品で、売れんもんばかりを作っていた」という初期のオブジェを展示したスペースをまわり、「これは田舎者が見た『都会』を表現しました。この線は、高速道路です」「これは『REQUIEM』、つまり“棺おけ”です」などと作品の説明をされました。

出石焼の白が際立つ、北側のスペースの作品群は、ろくろを回してできるだけ手を加えずに制作しようと試みたものだそうで、中央西側の作品は、「自分なりの宇宙を表現した」とのこと。シンプルな丸い形は、先生もよくできたと気に入っておられるそうです。

お話されるとき、ちょっとぶっきらぼうな永澤先生。しかし、あくまで謙虚な姿勢とその作品から、豪気さ、美を追求する厳しさを感じられたひと時でした。



会場入口で／右が永澤先生



奥中央に先生、囲んでお話しに耳を傾ける参加者

来週は、めずらしい秋の連休。おでかけの予定など立てていらっしゃる方も、多いことでしょう。当館は、連休中も開館し、振り替えのお休みもいたしませんので、今の企画展最終日まで毎日、開館しております。